
想雨(おも う)/沖神

いとり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おも
想雨／沖神

【Nコード】

N4349I

【作者名】

いとり

【あらすじ】

梅雨に入ってから君に逢えない。だけど、今日は逢えそうな気がするんだ。

彼女の場合（前書き）

こんにちは。

いとりです・ω・）ゝ

今回で3度目の投稿。

楽しんで頂けると光栄です。

でわ、どうぞー。

彼女の場合

「今日も雨アル……。」

窓越しに見える雨を見ながら、私はそう呟いた。

暖かな春の日が過ぎ、もう季節は梅雨に入っていた。

「もうすっかり梅雨入りだね。神楽ちゃんは雨が嫌いなもの？ 浮かない顔してるけど……。」

テーブルにお茶を3つ出しながら、新八が私に聞いた。

「……わかんないアル。」

雨は…

いつもずっと見ている事が出来ない空を、気にしないで見れるから好き。

何だか気になるあいつと、出逢える可能性が低いから嫌い。

―…わがままアルなあ。

自分でそう思い、苦笑する。

晴れた日なら公園にいる事が多いあいつ。

正直言うと、あいつが街を巡回している時間を狙って外に出る時もあるたまにあった。

だけど、ここ数日続く雨。

おかげであいつと逢わない日が続いた。

一応、公園に行ってはみるものの、逢った事はなかった。

―…雨の日は巡回してないのかな…。

自分にとっては、『ウザい奴』だと思いながらも、気になって仕方がない。

「神楽ちゃん、お茶冷めちゃうよ?」

「あ、わかったアル。」

私はあいつの事が好きなのかな…。

まだ誰かを『好き』と想った事がないから、余計に悩む。

少し冷めたお茶を覗き込む。

中央にポツン、と茶柱が浮いているのがわかった。

―…いい事あるかも。

お茶を一気に飲んで、

「新八、散歩行っってくるネ。」

と言った。

「わかった、雨だから気を付けてね。」

――懲りない奴アルなあ、私は。

そう思いながら外に出る。

でも、今日は何だか逢えそうな気がする。

自分の気持ち確かめるためにも、君に逢いたい。

だから私は

君に逢い

に行く

彼の場合

「……今日も雨か。」

廊下の柱に寄りかかりながら、晴れる事もない空を見て、そう呟いた。

ここ数日続く梅雨。

あんなに暖かった春の日差しは何処へやら。

季節はいつの間にか、どんどん過ぎて行く。

「お、総悟。いやー、本格的に梅雨に入ったなあ！総悟は雨が好き

なのか？こんな所にいて。」

「いや、雨は…嫌いですが。」

—…雨だと逢えないですからねィ。

数日続く梅雨のせいで、あいつに逢わなくなった。

いつもは公園で待ち合わせをしているかの様に、出掛ける度に逢っていたのに、梅雨に入ってからサッパリ。

自分にとってあいつは単なる『喧嘩相手』。

…なのに、逢わないといつも以上に苛ついてしまう自分がいる。

もしかしたら、俺はあいつの事が好きなのだろうか…。

「そうか、まあ風邪は引くなよ？」

「……近藤さん、それ、何です？」

さっきから、局長が右手に持っている白い物が気になっていた。

「ああ！照る照る坊主。」

――…本当に面白い人だなあ。

思わず鼻で笑ってしまった。

「総悟、今俺の事、馬鹿にしたよね!？」

「…晴れたら、…少しでも雨が弱まったら、あいつに逢えるだろうか。」

「いえ、してませんよ。それより、それ、俺にも作らせてくだせイ。」

「

出来た照る照る坊主を廊下に吊す。

「…こんなんで、あいつに逢えるかもしれないと思う自分って…。」

すると、天気はさっきよりも良くなっていた。

―…照る照る坊主、馬鹿に出来ねえや。

「近藤さん、俺出掛けます。」

「わかった、雨だから気を付けろよー。」

何だか、今日は君に逢えそうな気がする。

だから俺は

君に逢い

に行く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4349i/>

想雨(おもう)/沖神

2010年10月28日04時21分発行